

かがやき

令和3年 11月19日(金)
多摩市立連光寺小学校
特別支援教室 かがやき学級
学級通信 NO. 11

「学習発表会」あれやこれや

秋の深まりが進む中、「学習発表会」が無事に終わりました。多くの制約の中を過ごしている子供たちですが、練習や準備に夢中で打ち込む姿や舞台発表での子供たちの様子からはやはり何物にも代えがたい満足感が得られたのではないかと感じます。ただ、こうした「行事」については全ての子が「良かった」という気持ちを共有できないこともあります。かがやきの授業でも「学習発表会」については「人前で何かするのは好きじゃないなあ〜」「緊張してときどきする」といった声が聞かれました。本心としては苦手だなと感じつつも何とか乗り切る子。自分の苦手感からどうしても参加が難しい子。いろんな子がいると思います。しかし、それでもこうした場面の中に自分を成長させる要素もあるんだろうなあ〜とも感じます。それは、具体的に言えば社会の一員として何か取り組んでいくときにどうしても苦手なことが出てきたとき、自分なりにどうかかわっていくかを試行錯誤できる力を育てることであります。子供たちには0か100かで考える(やる・やらない)のではなく、40でも55でも65でも自分の参加できる方法やゴールを探すような取り組み方を指導しています。その結果、わずかでも「まあ、楽しめた」や「褒められた」等の前向きな気持ちになれることが次のスキルを広げてくれるのではと思うのです。各学年の発表を見てこんなことを考えました。

「気持ちと感覚について」

自分の「気持ち」と「感覚」の理解。これは授業でも取り組むことですが、当然のことながら子供たちの日々の経験の中で培われていくものです。例えば、遊びの中にある勝敗の受け入れ。鬼ごっこでは鬼に追いつかれてしまいそうな「ドキドキ」とタッチされてしまったら「くやしい!」という気持ちと入れ替わりながら遊びが進みます。中にはタッチされてしまったこと(ある種の負け)がとっさに受け入れられずに泣き出してしまう子もいると思います。日々の経験の中で身につけていくこともあれば、その場面を取り出して教えていくことで「わかる」という子もいます。かがやきで行っているのはこの指導ですね。もちろんこれだけではないのですが、自分の気持ちにどんな変化が起こったのか。それは快か不快か。言葉で整理するとどんな言葉になるか。自分の気持ちは相手に適切に伝わっているか。自分の気持ちや感覚を自分でどのように理解していくのか。学校生活、学習、遊び。様々な場面が教材になっていきます。自分の「気持ち」や「感覚」について知る。授業の中で進めている指導内容の一つです。

「お知らせ」

- ☆12月に令和3年度後期の個人面談を予定しています。希望日程表をまだ提出していない方は提出をお願いします。
- ☆学校、クラスで配布されているプリント類はご家庭に届いているでしょうか。学級でもかがやきでも子どもたちに声かけしたり机の中の整理をしたりしています。「最近どうかなあ〜」とお子様の状態、必要に応じて各ご家庭で配布物、提出等の確認をお願いします。
- ☆季節が移り日々の寒暖差も大きくなってきました。日照時間も短くなってきましたね。気候の変化に伴う「体調や気持ち」の変化「あるかもなあ〜」くらいのゆとりをもちながら見通しをもって生活していければと思います。